

消防学校における初任教育学生の「校長査閲」の概要

校長査閲とは、令和元年4月に県内各消防本部で採用された新人消防士（令和元年度は60名、うち女性6名）が、約6ヶ月間に渡って消防学校で学んだ成果を、各所属消防本部の職員や家族に披露するために行う消火・救急・救助の総合的な訓練です。当日は、消防車や救急車など、複数の消防車両を使用するほか、放水による消火訓練も行います。

1. 訓練礼式

①通常点検	隊員の人員、姿勢、服装及び物品等を一定の時期に検査を行い、これを整備し品位を保つことを目的とした訓練です。
②部隊訓練	団体行進等により、隊員に諸制式に習熟させるとともに、その部隊行動を确实軽快にし、厳正な規律を身に付けさせることを目的とした訓練です。

2. 機械器具取扱訓練（三連梯子操法、応急梯子救出訓練）

日々の消防活動で使用する頻度の高い三連梯子の操法を展示するほか、火災発生を想定し、空気呼吸器を着装した状態で、梯子とロープを使用して要救助者を救出する応急梯子救出訓練を展示します。

- ・三連梯子の重さ : 約35kg
- ・三連梯子の長さ : 約8.7m
- ・携行ロープの長さ : 約10m



3. 救急訓練（トリアージ、バックボード固定・搬送、心肺蘇生法訓練）

トリアージ訓練	災害発生時などに多数の傷病者が発生した場合、傷病者の緊急度や重症度に応じて適切な処置や搬送を行うために傷病者の治療優先順位を決定するための訓練です。
バックボード固定・搬送訓練	トリアージによって、重症度及び緊急度が高いと判定された傷病者を、素早くバックボードに固定して搬送するための訓練です。
心肺蘇生法	呼吸が止まり、心臓も動いていない傷病者の生命を維持するための胸骨圧迫（心臓マッサージ）を行うことを主な内容とした訓練です。

4. 消防活動訓練（F1展示）

消火活動に必要な動作を修得後、これを競技化して「F1（ファイヤーファイティングNo.1）」と称し、互いに切磋琢磨することでさらなる技術の向上を図ります。

《防火衣着装 → 消防車内での空気呼吸器着装 → 梯子搬送・登梯 → ホースバックによる消火ホース搬送 → 面体着装 → 放水》

- ①防火衣フル着装 : 防火衣、防火帽、防火長靴、空気呼吸器を合わせ約20kg
- ②ホースバッグ : バッグ本体、50mmホース2本、ガンタイプノズルを合わせ約12kg



5. 救助訓練（登はん、降下、ロープブリッジ渡過訓練）

ロープブリッジ渡過訓練は、離れた場所にいる要救助者を救助するためなどの訓練で、訓練塔2塔の間に水平に張られた渡過ロープ20mを渡過する基本的な救助訓練です。そのほか、2人が協力し、器材を使わずに塔上から垂らされたロープで7mを登はん・降下する訓練も実施します。



6. 総合訓練

大地震により、交通事故と一般建物火災が発生したことを想定し、消火・救助・救急の訓練を同時に行う実働訓練です。



消火訓練



救助訓練



救急訓練